

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1201417
園名	ひこばえ幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

子どもとつくる園庭（あそび場）

<テーマの設定理由>

園庭では様々な遊びが展開しているが、もっと楽しめ、探求が生まれる園庭を子どもたちとともに作っていきたいと考えた。園内研修を通して、子どもたちの姿や声をもとに、子どもたちの遊びが深まるにはどんな環境を再構成すればいいか検討し、外部講師のアドバイスを参考にしたり、他園の園庭を見学しながら、子どもたちの園庭遊びについて考え、子どもたちと一緒に園庭（遊び場）を作っていくため

### 2. 活動スケジュール

5月：園内研修「園庭のリスクとハザード」について学ぶ  
6月：他園見学。  
9月：園内研修「電気のこぎりやドリルなどの工具の使い方」  
10月：園内研修 「箱庭で作る理想の園庭」子どもたちの様子からの振り返り  
1月：園内研修「ワークショップの振り返り」  
5月～3月：月1～2回のペースで、保育中に子どもたちとの木工ワークショップを開催。

### 3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

＜活動のために準備した素材や道具、環境の設定＞

木工活動（ワークショップ）のコーナー、工具、木材、山砂、外用のベンチとテーブル

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり ＞

園内研修や他園見学で現在の園庭の遊びや環境設定の課題をを話し合い、まずは園庭でごっこあそびができるベンチとテーブルを購入した。すると年長児から「これは小さい子用のサイズだから、もっと大きいのがほしい」と声があがった。すぐ購入するのではなく、子どもと一緒につくるため、工具や木材を用意、外部講師のワークショップでの手ほどもと子どもたちも一緒に作ることができた。また、毎月ワークショップを開催することで、子どもたちからも「何かつくりたい！」という声や意欲がみえたため、回数を増やし、工具をつかってみたり、やすり掛けをすることで、木材の性質を知ったり、「とげがあるからあぶない」といって、どうしたらよいか考え、やすりをかけた後、ニスを塗ってみたりと活動が広がった。園庭の道具だけでなく、室内の遊びで使う道具や玩具づくりにも発展していった。

「どろだんごができない」という気づきから、砂の性質を変えてみることにし、川砂ゾーンと山砂ゾーンに分けて砂を購入した。新しい砂を入れる場所をつくるため、子どもたちと一緒に大きな穴を掘り、穴掘ることで築山ができ、山滑りなども十分楽しむことができた。そして大きな穴に性質の違う山砂いれると、今まであった川砂と比べ、「色が違う」「水がしみこむ」「かたいお団子ができる！」とたくさんの発見が生まれ、「もっといろいろな種類の砂や土が欲しい」という声が上がった。





#### 4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもたちの目の前で木工ワークショップを行うことで、子どもたちだけでなく、保育者も遊びをもっと面白くするためにあったらいいなと思うを作ることができる可能性を知ることができた。すぐに実現することで、意欲もわき、道具の使い方を知ったり、素材が形になっていく面白さや仕組みを知ることができ、子どもたちからのわくわくが伝わってきた。
- ・回数を重ねることで、「今度は〇〇をつくろう」とか「〇〇が必要だから、今度つくってもらおう」などの声があがり、見通しを持ちながら、園庭でも遊びを豊かにしていくことができた。
- ・園庭だけでなく、保育室の環境にも変化が出て、子どもたちも一緒に作ったものを大切に扱ったり、仕上げのやすり掛けを楽しんだり、使わなくなったものを解体してリメイクしたりすることで、新たな発見も生まれた。子どもから「お庭にシーソーをつくりたい」というリクエストも出たりと、子どもたちが主体的に活動に取り組む姿があった。
- ・砂入れは砂入れの場づくりから、面白い遊びが生まれた。砂を入れると予想以上に子どもたちの発見が生まれ、光る泥団子づくりに発展していく様子から、性質によって遊びが変わることを改めて学び、場を変えることで遊びも変わることを感じることもできた。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1201417
園名	ひこばえ幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

科学あそび

日常の遊びの中で、「シャボン玉」「紙飛行機」「ビニール風船」「たこあげ」などの遊びが盛んである当園の特色を生かし、「もっと遠く（高く）に飛ばしたい」「風を作る（おこす）」ことへの興味関心の深まりから、「風」「空気」「けむり」に焦点をあてて、科学的な視点から探求して行ってみたいと考えた。

<テーマの設定理由>

### 2. 活動スケジュール

5～6月 シャボン玉遊び、紙ヒコーキとばし  
8月 「空気」がテーマのサイエンスショーを観る  
9月 ロケット飛ばし、空気砲遊び  
11月 シャボン玉ワークショップ  
1月 凧揚げ

### 3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

風、空気のことを遊びを通して、深く知るために専門家による、サイエンスショーとワークショップを開催。サイエンスショーやワークショップで学んだことを日常の遊びで再現できるように、シャボン液、ワイヤー、アルミ箔や傘袋、空気砲実験用の箱、たこあげ用の凧など。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり >

日常の遊びで親しんでいる、石鹼遊びやシャボン玉遊び、紙ヒコーキ飛ばしや凧揚げをサイエンスショーとワークショップでくみをわかりやすく遊びながら学び「空気ってすごいね」「風と空気はおなじかな?」「大きなシャボン玉を作ってみたい!」などの多くの感動と発見があった。その後の遊びの中で、教諭が大きなシャボン玉を作る材料をそろえ、大きなシャボン玉作りを楽しんだ。また、空気の仕組みを知ること、ロケット飛ばしや飛行機の羽のつけ方など工夫したり、凧揚げをして風の力や抵抗を感じながら遊ぶ姿があった。





#### 4. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

日常的に子どもたちが楽しんでいる遊び（シャボン玉、紙ヒコーキ、凧揚げなど）も、専門家から新たな視点や問いをもらうことで、活動が広がったり、興味関心が深まり、新たにわいた疑問を調べたり、試したりすることができた。専門的な知識を得ることは保育者にとっても良い経験となった。

風（空気）を使ったり、感じたりする遊びはほかにもあるので、引き続き楽しむだけでなく、科学的な視点でも探求していけるように子どもたちにも投げかけていきたい。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1201417
園名	ひこばえ幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

わらべうた・伝承あそび

<テーマの設定理由>

絵本の読み聞かせの際に「どんぐりころちゃん」などのわらべうたを歌うと、すぐに覚えて、遊びの中で口ずさんで楽しんでいるということがあり、子どもたちがわらべうたや伝承あそびに興味・関心をもっていることから、このテーマを設定した。子どもが歌いやすいリズムやことばで昔から歌い継がれ親しまれているわらべうたの魅力を伝え、日常生活や遊びの中に根付いていってほしい。また、わらべうたや伝承遊びを通して、日本文化の継承や言葉や数感覚の習得にもつながっていくことにも期待したい。

### 2. 活動スケジュール

5月・10月・1月 わらべうたの会

1月 伝承遊び（こままわし、けん玉、お手玉、羽子板、かるた、凧揚げなど）

日常の中で「わらべうた」を歌ったり、遊んだりして親しむ。

### 3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

講師から年齢に応じたわらべうたの会を開催。わらべうたの本。

こま。お手玉、畳、莫産、けん玉、かるた、お手玉を用意し、活動しやすいように畳や莫産でゾーン分けをした。こまは年齢別に違うタイプを一人ずつ用意した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり >

わらべうたの会では身体を動かしたり、布を使って遊ぶわらべうたあり、保育者も一緒に楽しんだ。

歌のなかで数を数えたり、昔のことばがでてくると「どういう意味？」と尋ねる様子もあった。その都度、ことばの意味を丁寧に伝えていった。また季節を感じる歌もあり、日本の節句を歌を通して知る機会にもなった。

日本の文化に触れ、正月はこままわし、羽根つき、凧揚げ、かるた、けん玉、お手玉に熱心に取り組み、こままわしは大会も開き、友だちを応援したり、励ましあったり、「ひもをちゃんとまくといいよね」「こまがまっすぐだとたくさんまわる」など、どうしたら長く回るか試行錯誤する姿があった。







#### 4. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

わらべうたは昔から歌い継がれているだけあって、テンポやリズムが柔らかく、子どもたちになじみやすいと感じた。繰り返し歌うことで、よく覚えて、日常の中で口ずさむ姿もあった。また歌いながら遊べる（「なべなべそこぬけ」「あずきちゃん」など）歌もあるので、楽しめた。また歌の中で、数をかぞえてたり、生活習慣（たたむ、しぼる）の動きもあり、遊びながら身につくきっかけにもなった。

こまや凧揚げは子どもたちの好きな遊びだが、簡単ではなく練習をしたり、工夫をしなければならぬところが、子どもの学びや育ちにつながり、とても良いと感じた。友だち同士で「どうしたらうまくできるか」相談したり、情報を共有したりするきっかけにもなった。かるたは文字に関心を持つきっかけにもなり、最近、家庭では馴染みがない、畳や莫座の上で行うことで、日本の文化に触れる機会にもなった。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1201417
園名	ひこばえ幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

園庭・屋上の自然とかかわる

<テーマの設定理由>

園庭には草花や樹木やビオトープ、屋上には畑があり、季節の移り変わりや樹木や作物の成長を自然から感じることができるため「自然」をテーマに設定した。子どもたちは季節ごとに果物や野菜の生長を楽しみにまち、「芽が出たよ」「赤くなってきたから食べられるかな」「きれいな花みつけた」「メダカの赤ちゃん生まれてる」と園庭や屋上の自然に興味を持つ姿があり、子どもたち自ら収穫したり、草花を摘んで遊びに使ったり、ビオトープに住んでいるメダカやヤゴの生息を観察しており、さらに興味関心を深めていきたいため。

### 2. 活動スケジュール

5月～11月

園庭の果実（あんず、やまもも、ブルーベリー、ぶどう、みかん）の収穫、調理

5月～3月

屋上の畑と園庭のプランターの野菜（枝豆、トマト、ナス、ピーマン、にんじん、大根、カブ、じゃがいも、小松菜、はつか大根）の種まき、栽培、収穫、調理

5月 メダカとヤゴの観察と環境授業

6月、8月、11月、3月 園庭の樹木の剪定、毛虫退治

### 3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

子どもたちの意見を聞きながら、屋上で育てる野菜を決め、たねや肥料を用意し、畑を耕し種を植えた。また、順調に生育するために必要なことを絵本や図鑑で調べられるように用意した。収穫したものをどうするか、話し合いの時を持ち、調理道具やエプロンを用意し、衛生面でも安心して調理活動ができるような環境を用意した。子どもたちが安全、また十分に収穫体験ができるよう定期的に剪定をし、樹木や園庭のメンテナンスを行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり >

どんな野菜を植えたいかという教師の問いかけから始め、いろいろな野菜が候補に挙がる中で、図鑑や絵本などで調べるところから、子どもたちの期待は膨らみ、実際に種をまき、芽が出て育てっていく様子をつぶさに観察する中で、大きく育つことをとても楽しみにしている姿があった。

残念ながら葉っぱを虫に食べられてしまい大きくなれなかった野菜を残念ながら「どうして虫が来たんだろう」「そうしたら虫から守れるかな」と考えたり調べたりする姿があった。

園庭の果物はぶどうがたくさん実らなかった原因を調べたり、植木屋に質問し、対策を考えあった。

また、収穫した果物や野菜をつかって、ジュース、ゼリー、パンケーキやスープやカレー、みそ汁を作り、食した際は「甘い味がする」「特別の味がする」と、自分たちで育てたり、収穫した野菜に親しみを感じ、自分たちで調理をして食べる喜びを味わった。「次は何育てようか」と次回を楽しみにしている。また季節によって育つ果物や野菜の違いに気づききっかけにもなっていた。







#### 4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

屋上や園庭に果物や野菜が生長してく様子を日常的に観察や世話ができることで、親しみもわき、また、収穫できなかつたり、うまく育たない体験もしたことで、「どうしてだろう」という疑問を持ち、対策を考えることもよい探求になっている。成功体験だけでなく、失敗体験も大切な学びだと感じた。

調理活動も毎年継続していることでバリエーションも増え、新たな提案も出てくるようになった。

ビオトープに初めてヤゴが生まれ、メダカとの共存について学びを得て、子どもたちの興味関心が深まり、命の誕生を楽しみに待っていた。3月には初めてカエルが卵産み、おたまじゃくしが生まれた。ビオトープに生息する生き物が年々増えているのも今後が楽しみである。園庭、畑、ビオトープのメンテナンスもしっかり行い、子どもたちの体験をさらに豊かにしていきたい。